

めぐみイエス・キリスト教会

2018年2月18日(日) 第三聖日礼拝
週報「通算第393号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年2月18日(第三聖日礼拝)

午後6時～7時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.44 詩篇第139篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.15 「だから元気を出しなさい」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書13章31節～33節(新約p. 190)

【祈 禱】

【説 教】 《今しばらくの間は一緒に》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless you」 p. 294

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1「今こそ人の子は栄光を受けます」とは？

※第Ⅰコリント1章18節・22節前半「使徒パウロの理解から」(新約p.291)

1:18 十字架の言葉は、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。

1:23 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。

●ポイント2「神もご自身によって、人の子に栄光を与える」とは？

※使徒働き10章38節～43節「コルネリオへの説教から」(新約p.228下段)

●ポイント3「私が行く所へは、あなたがたは来ることが出来ない」とは？

※ヨハネの福音書7章33節～36節「パリサイ人と律法学者」(新約p.173)

7:33 そこでイエスは言われた。「まだしばらくの間、私はあなたがたと一緒にいて、それから、私を遣わした方のもとに行きます。

7:34 あなたがたは私を捜すが、見つからないでしょう。また、私がいる所に、あなたがたは来ることができません。」

7:35 そこで、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちには、見つからないという。それならあの人はどこへ行こうとしているのか。まさかギリシヤ人の中に離散している人々のところへ行って、ギリシヤ人を教えるつもりではあるまい。

7:36 『あなたがたは私を捜すが、見つからない。』また『私のいる所にあな
あなたがたは来ることができない。』とあの人と言ったこの言葉は、どういう意味だろうか。」

※ヨハネの黙示録20章11節～15節「白い御座と第二の死」(新約p.458)

20:11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。

20:12 また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、命の書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされている所に従って、自分の行ないに應じてさばかれた。

20:13 海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに應じてさばかれた。

20:14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。

20:15 命の書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

◎先週のメッセージの概要【「主よ。それは誰ですか？」】

《さて三つの共観福音書にも、『最後の晩餐』の場面が書かれていますが、使徒ヨハネは、全く独特の描き方をしています。

ヨハネの福音書には、『「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、私を裏切ります。」弟子たちは、誰のことを言われたのか、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。そこで、シモン・ペテロが彼に合図をして言った。「誰のことを言っておられるのか、知らせなさい。」その弟子は、イエスの右側で席についたまま、イエスに言った。「主よ。それは誰ですか。」イエスは答えられた。「それは私がパン切れを浸して与える者です。」それからイエスは、パン切れを浸し取って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。』と、書き記されています。

「主よ。それは誰ですか。」その答えを、マタイが福音書に書き記しています。『イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ。」と言われた。』

イエス様もまことの人であります。親しい友に、長年愛して来た弟子に、裏切られることは、やはり心に傷を受けられるのです。「裏切る」と言う行為は、差し伸べられた愛の手を拒むことです。

「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」と、イエス様が言われますと、ユダは外に出て行きました。ユダが出て行った時は、すでに夜になっており、真っ暗闇でした。ユダは光よりも暗闇を選んだのです。

しかしこの時点においても、まだイエス様は、彼をあきらめてはいなかったのです。イエス様は、最後の最後まであきらめないお方なのです。

主の愛の御手を決して離してはなりません。主は離されません。あなたがその御手を振り払うのです。それが「裏切る」ことです。イスカリオテのユダは、私たち主を信じる者に対して、大きな教訓を残していると言えます。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、2月25日(日)午前10時から行ないます。また次回聖書研究会・祈祷会は、2月21日(水)午後6時15分から、行ないます。
3. 鈴木師は、2月19日(月)ITCN午後集會に、そして2月20日(火)市川朝禱會に出席予定です。